（別紙4）　　平成　26　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2691200055		
法人名	医療法人栄仁会		
事業所名	栄仁会グループホームやまぶきの郷Aユニット		
所在地	宇治市菟道段の上20-1		
自己評価作成日	2014年12月12日	評価結果市町村受理日	平成27年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2691200055-00&PrefCd=26&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530－0041　大阪市北区天神橋2丁目4番17号　千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・やまぶきの郷では接遇等の研修にに力を入れており、研修に行った職員は全体会議等で研修を受けてからの自身の変化を話す場を設けている
・消防訓練を二か月に一回行っており、内容も火災だけではなく、地震や入居者の高齢化に対応する為に救急救命講習を行う等幅広い訓練を行っている
・利用者にこれまで住んでいた家に外出してもらう等これまでの生活を切らさない様心がけている
・地域の中に根差す為、同業者や地域との交流の場があれば積極的に関わりを持つようにしている(地域の祭りへの参加、ボランティアで来て頂いている生け花の先生の作品展に行く等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当該事業所は利用者の意向と共に家族の意向や要望を聴き、一緒に楽しめる行事を企画するなど家族との関わりを大切にしながら、本人の暮らしを共に考える関係作りに努めています。日頃から外出の機会を多く作り、好きな歌舞伎や宝塚歌劇、生まれ故郷へ出かけるなど、家族と相談しながら思いの実現に向け話し合っています。職員は消防や研修、ボランティアなどの各委員会活動を担い、業務改善からケアの方法など多くの意見や提案を出し合い職員のレベルアップを図りながら、質の高いサービスの提供に繋がるよう努めています。また保育園児との継続的な交流や歌や生け花、掃除など様々な地域ボランティアの来訪も多くあり、理念にも掲げている家庭的な雰囲気の中で一人ひとりがその人らしく過ごせるよう、家族や地域の方と共に利用者を支え豊かな暮らしの提供に努めています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示し、理念を中心に、その人らしいケアが出来るよう常に努力している。	開設時にその人らしさや地域交流を謳った施設理念を作成しパンフレットや広報誌へ記載したり、玄関に掲示し職員に意識づけをしています。介護計画の作成時にはその人らしさを活かした計画となるよう話し合ったり、地域行事への参加やボランティアとの交流などを通して理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭、花笠まつりなど地域の行事に参加している。やまぶき祭りや消防訓練に地域の方に参加して頂くなど、交流を行っている。	自治会に加入し地区の花笠まつりや納涼祭などの行事に参加したり、地域の消防団の一員として活動に参加しています。クリスマス会や運動会など保育園児とは継続的な交流を行い、ホームの祭りは地域の方にも案内し開催しています。地域の理解も深まる中、掃除や歌、フラダンスなど多くのボランティアの来訪に繋がり、交流が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校2校の職場体験を受け入れ、認知症介護について学んでもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録をユニット内に掲示し、スタッフ全員が意見や内容を周知しケアに反映させている。	会議は利用者や家族代表、自治会長や他事業所の職員、地域包括支援センター職員などの参加の下、隔月に開催し行事や活動報告を行い、意見交換をしています。意見を受けて地域の方向けの認知症講座の実施や道路への出入り口にミラーの設置が実現したり、個別外出の機会を増やすなど運営やサービスに活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員を受け入れ、運営推進会議に市役所の方に参加の呼びかけなどし、サービスの向上や適性なサービスの提供に努めている。	運営推進会議録を提出してホームの状況を報告し、会議へ参加を得ることもあります。介護相談員の受け入れや手続きなど分からない事があればその都度相談を行い、アドバイスや助言を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒が発生すると、拘束をしないケアを念頭に置いて対応策を話し合い取り組んでいる。 また、家族には転倒のリスクについての話し合いを何度も行っている。	身体拘束に関する外部研修を受講し伝達の中でホームでどのように活かせるかを話し合ったり、職員が交代で講師を務めて研修を行い、職員はレポートを提出するなど理解が深まるよう取り組んでいます。出入り口の施錠は行わず利用者が自由に行動できるように見守りし、リスクを感じた際には家族に報告し共に拘束の無いケアについて話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行い、施設全体で虐待を見逃さないような体制作りを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、権利擁護についての理解を深めている。現在後見人制度を利用している方が3名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、必要に応じて個別に十分な説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、アウトカム評価や家族会を実施している。アウトカム評価で指摘を頂いた項目については回答、改善を書面にし、家族に配布している。	介護相談員を受け入れ利用者の意向を聞いてもらったり、家族の意見は面会時に様子を伝える中で聞いたり家族会や運営推進会議の際にも聞いています。また各職員が担っている担当を通して無記名のアンケートを其々実施しており、多くの意見や要望が出されています。出された意見はその都度対応したり、全体会議でも話し合い、改善策は全家族に報告をしています。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、全体会議、個別面談などで提案できる機会を設け、反映させている。	毎月の全体会議では各職員が担当している消防やボランティア、研修などの担当を通して取り組みを報告し意見交換をしたり、週1回のユニット会議などで意見や提案を聞いています。日常の業務改善からケアの方法、職員の気づきなど多くの意見が出されており、職員間で話し合いながら全体がレベルアップできサービスの向上へと活かせるよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や全体会議などで勤務の現状、改善点などを伝える機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員が希望に添った、または力量に合った研修を受けられるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設に実習に行く研修に毎年施設から1名参加しており、参考に出来る事などは自分の施設に持ちかえり、サービスの質を向上させるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートを用いることで家族や本人から発せられる情報をもとに一人一人にあったサービスの提供が出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式シートをもとに家族の思いを知り、サービスに繋げると共に、家族もケアの一員であるという意識を持っていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズによって、小規模や訪問介護だけではなく、他の事業所等への紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との会話や得意にされていることから教えて頂いたり手伝って頂く機会を作り、支え合っていることを感じて頂く工夫をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会・運営推進会議・消防訓練・行事等への参加の機会を設けたり、居室の大掃除や衣替えの協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅を希望される方と一緒に自宅で過ごす時間を作ったり、外出レクでは馴染みの場所へ行って頂くよう努めている。	昔から好きな歌舞伎や宝塚歌劇を観に行ったり、良く買い物に出かけていた場所や以前に行っていた京都駅周辺などへ希望を聞きながら一緒に出かけています。ホームでは馴染みの支援に力を入れており、日々の関わりの中で知った思いを担当職員が中心となり家族とも相談しながら実現できるように話し合い、生まれ故郷を訪ねたり、他県への墓参りなどにも付き添い、馴染みの関係を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	くつろぎや食事の時間を心地良く過ごして頂く為、居場所やテーブル席の配置を工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の行先への相談に応じたり、経過をフォローする事で再入所して頂く場合もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での言動をもとに、希望や意向の変化にいち早く気付ける様、各自が意識し、その情報をチームで共有している。	入居時にセンター方式のアセスメントに生活の様子や習慣、好きなことなどの情報を家族に記入してもらい、日々のケアの中で得られた新しい情報を追記しながら職員間で共有しています。意思の疎通が困難な方には思いを推測しながら家族に聞いたり、様々なサインを見逃す事の無いように関わり、職員間で検討し思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には家族に、これまでの生活歴や趣味趣向をセンター方式のシートに記入をして頂いたり、聞き取りなどを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクレーションがある時には声かけを行い、本人が希望するものには参加して頂いている。また心身の状態に変化のある時には、出勤している看護師、状況によっては主治医と連携をとり、情報を職員で共有出来るようにしている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の対応等について悩んでいる時には、週に1回行っているスタッフ会議で、色々な意見を聞き、ケアの改善を行っている。	アセスメントの下、本人や家族、医療的な意見が必要な場合は職員の看護師や医師の参加を得てサービス担当者会議を開き、介護計画を作成しています。週に1度のスタッフ会議で支援の状況や新たな課題について確認しケアについて話し合っています。介護計画は3ヶ月毎にモニタリング・評価し6ヵ月毎に見直しを行い、必要に応じて随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録にはセンター方式シートを活用し、分析を行っている。また、ケアの工夫で上手くいった事があった際には、申し送りで職員同士伝え合い、その場限りのケアにならないようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模や隣のグループホームのユニットで行われているレクレーションに参加したり、近くにこれまで住んでいた家がある方に少しの時間でも帰って頂いたりとグループホームの中だけで生活が完結しないようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でお祭りがある際には、利用者にも参加して頂いている。また、消防訓練では消防団にも参加を要請し、有事の際にどうすれば良いか等をお話しして頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診察だけではなく、家族や本人が希望される時には、かかりつけの主治医と連携をとり、緊急の訪問診察や他科への受診を行っている。	これまでのかかりつけ医を継続することは可能ですが現在は全利用者がホームの協力医に変更し、月2回の往診を受けています。他科への受診が必要な場合は家族が付き添い、職員が送迎を支援することもあります。また訪問歯科や口腔ケアは個々に合わせて必要な治療を受けてもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中1名は看護師が出勤している体制を作り、利用者の状況の変化に対応している。また、夜間等の時間も看護師が常に専用の携帯電話を所持しており、相談が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者や家族とは予め希望する病院を聞き、入院等の際にスムーズに移行できるようにしている。また、入院後も面会に伺い、入院先の担当看護師等をかいして情報の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルの研修を行い、グループホームにおける看取りについて職員全体で考えている。また、家族に対しては、書面で終末期の対応を伺い、思いを共有するようにしている。	入居時に終末期の対応について説明し、24時間医療が必要となった場合などは対応が難しいことを伝えています。これまでに支援の経験があり、看護職員を中心に家族や職員とも詳細に話し合い、訪室を多くしたりマッサージや好きな音楽をかけるなど、安心して最期が迎えられるよう支援に努めています。職員は看取り支援の経験が自信に繋がっており、ターミナルケアに関する研修も受講し方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しており、設置場所も職員全員に把握してもらっている。また、AEDの研修も受けており、研修内容を伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	二カ月に一回、防災訓練(防火、避難訓練、救急救命講習)を行い、地域の方々や家族にも参加して頂く等し、意識を高めるよう努めている。	消防委員を中心に隔月に訓練を行い、職員の防災に対する意識を高めています。その内2回は夜間を想定し消防署の協力の下、自治会長や消防団員、時には家族の参加を得て共に訓練を実施し、居室の家具の耐震へのアドバイスなども得て参考にしています。また水や缶詰、レトルトなどの備蓄も準備し災害時に備えています。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・プライバシーの保護・コンプライアンスの研修を行っており、職員の意識を高めるよう努めている。	入職時研修や外部研修の受講の他、接遇委員会が中心となり隔月に研修を実施しています。職員の行動指針を基に、今年度は特に接遇マナーに力を入れて取り組んでおり、利用者の立場に立って考えることや言葉かけ、身だしなみも含めて日々の対応を確認しています。不適切な対応が見られた場合はその都度注意したり、ユニット会議で話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全体会議の際、一カ月の利用者の様子を発表し、皆が把握できるようにしている。また、常日頃から関わりを持ち、本人の思いをくみ取りようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時や入床時はスタッフの都合に合わせるのではなく、その人に合ったペースで過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に行き、自分の着たい服を選んで頂いている。また、家族の面会時には前もって化粧をしたり、カチューシャを毎朝自分でつけてもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に行く前に食べたいものを尋ねたり、一緒に本を見てメニューを考えるようにしている。また、可能な方には食器の下膳をして頂いている。	利用者の食べたい物や季節感を取り入れた献立を立て、利用者には下拵えや下膳などできる事に携わってもらい、職員も介助や談笑しながら共に食卓を囲んでいます。手打ちうどんや干し柿作り、誕生日には好きな食事を提供したり、少人数や家族を誘って寿司や焼肉、ラーメンなどの外食に出かけています。また一人で静かに食べたい方には時間をずらし、ゆっくり食事が摂れるよう配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を多く使用する、塩分を取り過ぎない様汁物は一日一回にする、炊込み御飯類も多くならないようにするなど栄養面にも気を配っている。また、水分も毎食コップ一杯は飲んで頂く様心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には嚥下体操を行い、誤嚥防止に努めている。また、訪問歯科の口腔ケアの利用や、モンダミンやハミングッドを使用しながら清潔保持できるよう心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センター方式シートを活用し、排泄パターンを掴めるように努めている。排尿間隔が長い方や立位が困難な方は定時誘導し、場合によっては二人介助を行い、トイレでの排泄を促している。	記録を参考に排泄パターンを把握し、個々の排泄リズムに添ってトイレで排泄ができるよう支援しています。カンファレンスでは本人の尿量や排泄の回数に合った排泄用品などを考えて話し合い、家族に提案しています。夜間のみポータブルトイレを使用する方やタイミングを掴み支援することで紙パンツから布の下着に変更になった方など自立に向かえるよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維が多い物を食べて頂く様に努めている。また、オリゴ糖やヤクルトを利用し排便を促すように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	グループホームには機械浴が無い為、浴槽に入れない方は小規模へ上がり、入浴をされている。冬場は気温も低い為、風邪をひかないか心配。グループホームに機械浴が無いのがこれからの課題である。	入浴は早い方は8時半頃から夕方5時頃までの間に一人ずつ湯を入れ替えて掃除を行い、気持ち良く入れるよう支援しています。季節の柚子や菖蒲湯、入浴剤などを入れ、入浴が楽しめるよう支援しています。入浴を拒む方はほとんどなく、時間をずらして声をかけるなど、無理の無いように配慮をしています。また浴槽に入れない方は併設の施設の機械浴を利用してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室にTVや椅子を置き、一人でも夫婦でも楽しめるよう場所作りをした。(夫婦の時間を大切にする)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各受け持ちは必ず、薬の知識を持ち、主治医や看護師、薬局との連携をとっている。また、疑問に思ったことは往診時に主治医に質問するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品(おかし、コーヒー、ビール等)を本人の希望でお出ししている。また、好きなスポーツをテレビで観戦してもらったり、好きな漫画の読みきかせを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに行くのが好きな方には天気が良い日にお誘いしたり、自分の家が気になる方には一緒に様子を見に行ったりしている。他にも、実家のお風呂が回収された時に一番風呂に入りに行ったり、お店に一緒に行きズボンを購入したり、ペットカフェ、喫茶店にも行ったりしている。	天気の良い日は近隣の公園に車で出かけ散歩をしたり、ショッピングモールなどに出かけています。季節に合わせて初詣や桜、アジサイ、紅葉などを見に出かけたり、家族に声をかけ一緒に出掛けることもあります。少人数や個別に行きたい場所を聞き出かける機会が多くあり、買い物や喫茶店、映画や宝塚歌劇など希望を聞きながら企画し出かけています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自お小遣いを金庫で管理し、買い物外食等、御家族に連絡の下、自由に使えるようにしている。家族、本人の希望で財布を持っておられる方は、御自分で持っているお金を使っていただいている。ご自分で財布を持ちお金を使う事によって安心感、社会的地位の保持となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は今の所希望される方はいない。希望があれば支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁や窓には季節感のある貼り絵をしている。また月に二回生け花の先生をお呼びし、利用者と季節の花を活けている。ベランダには青シソやプチトマトを植え、利用者と収穫を楽しんだ。	玄関やテラス、リビングは花や野菜を植えたり、正月飾りや生け花を活け季節感のある空間作りを行っています。利用者同士の相性を考えソファや椅子の配置を工夫したり、フラットな和室には炬燵も置かれ、其々が好きな場所を選び過ごせるようにしています。また頂き物の家具を置いたり、テレビを点けたままにしない等の配慮をしています。キッチンと食卓も近く、調理の音や匂いを感じることもでき、家庭的な中で居心地良く過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーで仲の良い利用者が歌を歌ったり、談話を楽しまれている。また、テレビ好きな方は一日中リビングでテレビを楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夫婦で入所されている方は一緒の寝室にされている。また、ベッドマットを自分の物を使われていたり、テーブルや椅子を置いて、自宅に近い雰囲気を作られている方もいる。	利用者はタンスやテーブルなどの使い慣れた家具や冷蔵庫や電話を引く方もおり、必要な物は自由に持ち込むことが可能です。ラジオなどの趣味の物や好きな犬や猫の写真を飾ったり、希望に応じて畳を入れることもでき生活習慣に合わせて自宅に近い環境作りを支援しています。また家族に家具の使い易さや安全面を考えた配置を提案したり、家具の耐震なども考慮し安全な居室づくりを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止の為、手すりを持って歩行して頂いている。洗濯物たたみや食器の下膳等負担にならないようなお手伝いをして頂いている。		